

# 挑戦

第10号

発行日 平成 12 年 7 月 23 日

発行者 吉村研究室新聞発行委員会



## 第 10 号発行にあたっての挨拶

研究室主任 吉村 昇

いつもながら、年 1 回発行の研究室新聞<挑戦>を卒業生、修了生並びにセンサー工学研究会のメンバーの皆様にお届けする頃となりました。皆様お変わり有りませんでしょうか。我が国の経済状況も今一と言った状況が続いて居り、学生の就職戦線も未だ厳しいものが有ります。しかし、今年の学部の内定状況を見ますと、昨年よりは少しは上向きかなと思われます。いずれはこの様な厳しい経済情勢の中で、日々奮闘されている皆様には、改めて敬意を表すと共に、益々のご発展とご健勝を祈念いたして居ります。

私もお陰様で、鉱山学部長を 3 年、工学資源学部長を 2 年の計 5 年の学部長職をこの 3 月 31 日で満了致しました。この 5 年間は研究室を留守にすることも多く、研究室の鈴木助教授、水戸部講師、佐藤忠雄技官に助けをもらい、何とか任期を満了する事が出来ました。ここに改めて研究室のスタッフに感謝する次第です。皆様方が研究室を訪ねられても、ゆっくりとした対応も出来ず、申し訳ない気持ちで一杯でした。今は自由の身、どうぞ遠慮なく来研されますことを願ってます。

今年も 4 年生は 15 人所属し、大学院生（博士：1 人、修士：8 人）と合わせて 24 人の大所帯です。他には、日本学術振興会博士研究員として今年 3 月博士課程を修了した熊谷誠治君、客員研究員として北京から来ている余峰君が在籍しています。企業との共同研究も含めて、研究室一同精力的（？）に研究に励んでいるところです。

平成 11 年度は 4 年生 15 人中 7 人が大学院に進学しましたが、今年はわずか 3 人だけです。勉強嫌いの 4 年生が集まったのかなと自問自答を繰り返しているところです。

最後に、新聞の発行に当たり新聞委員会（委員長：M1 猪俣仁吉君）のメンバーには大変苦勞をかけました。感謝する次第です。

## 吉村先生ニュース

### 朝日新聞(全国版)の「論壇」欄に吉村先生の記事掲載

今年の2月22日の朝日新聞に吉村先生の投稿記事が掲載されました。『希少金属の備蓄体制築け』とのタイトルで、産業界で重要な機能を発揮する希少金属の日本における備蓄体制の必要性について書かれています。以下に記事の一部を紹介します。



全希少金属四十七種類について(現在の備蓄対象は七種類)、日本の三年間消費分(現在の備蓄量は四十二日分)を、二〇〇一年から二〇五〇年まで五十年かけて計画的に、高品質製錬備蓄する。高品質製錬備蓄とは、従来の鉱石による備蓄ではなく、高純度にまで製錬した希少金属を備蓄するものである。

備蓄体制は、現在の国の金属鉱業事業団と民間の特殊金属備蓄協会により運営する。金属鉱業事業団は備蓄関連政策の企画・立案を行い、特殊金属備蓄協会は鉱石の購入、高品質製錬の民間委託、買い上げ、備蓄管理を行う。

さらに、希少金属の国家製錬備蓄会議を、金属鉱業事業団や特殊金属備蓄協会とは別に設置する。会議は備蓄計画や製錬技術、リサイクル技術推進の方向、技術供与による外交政策について提案するとともに、特殊金属備蓄協会の監査を行う。

高品質備蓄を実現するには、私の試算では五十年間で十五兆円を投入する必要がある。資金調達は金属鉱業事業団と特殊金属備蓄協会が受け持ち、金利分を国が拠出してはどうか。国家予算の規模から見れば実現可能である。

国家製錬備蓄制度は、緊急時対応の備蓄を可能にするとともに、製錬技術の発展と集積や、二万五千人の雇用増といった経済的効果をもたらさだろう。さらに、資源・環境の安全保障の一環として、国際社会および日本の環境リサイクル技術の発展にも貢献すると考えられる。

(朝日新聞より)

### 吉村先生の工学資源学部長の退任

今年の3月をもちまして、吉村先生が学部長を任期満了で退任なされました。鉱山学部長を3年、工学資源学部長を2年という計5年間もの長きにわたる学部長としてのご活躍、本当にお疲れ様でした。そして、これからは常に研究室におられて、私達への御指導、御鞭撻のほどを宜しくお願いします。

# Congratulations

## 結婚おめでとう

昨年から今年にかけて、卒業生でご結婚された方をご紹介しますと思います。吉村研究室も18年目を迎え、結婚適齢期に達した方が増えたようです。

昨年の新聞発行時付近から順を追ってご紹介いたしますと、昨年5月、平成12年度修了の工藤健君が同級生であり、平成10年度卒業の松本文佳さんと結婚いたしました。元気な二世も誕生し、とっても幸せそうです。(写真右)



秋にはいるといよいよ結婚シーズンたけなわ。かねてから噂の絶えなかった水戸部先生(平成2年度卒業)が、ついに結婚披露宴を行いました。昨年の新聞でご紹介したとおり、水戸部先生は既に結婚しておりましたが、奥さんをご紹介するのははじめてです。(写真左)

水戸部先生のご結婚の後を追うように、平成4年度修了の渡辺茂君が結婚式を挙げました。(写真右) 渡辺君と水戸部先生は同級生であり、毎週のように秋田を訪れる卒業生も多く見られました。ご苦労様。残った方々も早く結婚してください。

渡辺君は、現在仕事の関係で宮城へ行っておりますが、子供も生まれ、毎日幸せな生活を送っているようです。





その後、平成4年度卒業の菅原剛君が結婚しました。結婚式は秋田市で行われ、久しぶりに懐かしい卒業生の方々とお会いすることもできました。菅原君は現在秋田市在住で、幸せに暮らしているようです。  
(写真左)

年が変わって2000年になると結婚ラッシュはいよいよピークを迎え、年明け早々に平成10年度卒業の内海光子さんが結婚、3月には平成6年修了の加藤正明君が結婚しました。加藤君は結婚の報告も兼ねて研究室に遊びに来てくれました。

その後、平成8年修了の杉本智子さんから、養子ではないけど姓がかわったとのメールを頂きました。お目出度い話があったようです。

年度が替わって5月には、平成11年度博士修了の熊谷誠治君が結婚いたしました。(写真右)彼は現在、博士研究院として引き続き研究室に残り研究を続けております。近々子供も産まれる予定で幸せな毎日を送っているとか。



そして、ついに大御所、昌子智由先生が先月結婚いたしました(写真左)。既に新居も構え、毎日とろけるくらい甘い生活を送っておられる様子です。詳細は研究室のホームページをご覧ください(詳細は研究室のホームページをご覧ください(<http://kc6.ee.akita-u.ac.jp>))。

この他にも、まだまだ多くの卒業生の方々が結婚され、新しい生活を送っているものと思います。皆様が無事永くお幸せでありますよう、この場を借りてお祈り申し上げます。

(鈴木記)

鈴木先生ありがとうございました。  
皆様方の幸せを研究室一同願っております。

## 留学生紹介

今回は、今年の四月に研究員として来られた、中国の余 峰（ヨ ホウ）さんを紹介します。余さんは、中国北京出身で、日本語は何にも知らずに来られたそうです。しかし、28歳の余さんの日々の努力の成果により、短期間で、日本語での会話ができるようになりました。現在、余さんは、研究室のみんなとの交流を増やし、日本語や日本文化の知識を高めながら、研究に励んでいます。研究分野での良い結果が期待されます。

以下の文は余さんに書いて頂いた自己紹介文です。余さん、貴重な時間を割いて自己紹介文を書いて頂きありがとうございました。

\*\*\*\*\*

**Hello , everybody! I am Yu Feng (ヨ ホウ) from Beijing, China. I am very honored to become a member of Yoshimura Lab from this April. According to schedule, from now on, I will spend about four years studying in Akita University.**

**Twenty-eight years ago, I was born in Jiujiang city, a middle city in south China beside the Yangtze River, near to the famous Lushan Mountain. I spent my joyful childhood and boyhood in this beautiful environment. In 1989, at the age of 17, I was admitted to Wuhan Hydroelectric University and my major was High Voltage(HV) Technology and Apparatus.**

**In 1993, I was recommended by our university to Electric Power Research Institute of China(EPRI). While serving in the HV Research Department of EPRI, I did some research work in HV insulation of power transformer and HV testing. Then, I entered to the Graduate Department of EPRI in 1995 and got my M.E. degree three years later. Then I began the research work in performance and manufacture technique of MOE varistors.**

**While I had been doing my research work in EPRI, I came to know professor Yoshimura and Akita Univ. from many reference papers. What surprised me most was that professor Yoshimura was full of scintillant thoughts in his study as well as had a wide-reached research field. While witnessing some friends in my research group entering Yoshimura Lab, I also had a great desire to study under professor Yoshimura's tutorship.**

**I was very honored to be accepted by professor Yoshimura at last and came to Akita this April. At the beginning period everything was new and exotic here as well as Japanese language was totally strange to me. Although I had not any Japanese language basis before I came here which is due to busy research work in EPRI, with the idea that I could understand people less or more by the Chinese words in Japanese language, I arrived in Akita without much worrying in my mind.**

**However, everything was not as the same as I had predicted at all. Due to the language problem, I encountered a lot of inconveniences from the very beginning time, such as shopping, telephone-calling, bus-riding, etc. Some Chinese students had helped me a lot in my daily life, but there were really embarrassing moments almost everyday. At that time I had been so frustrated that I always had a depressed mood in a whole day. What made me very appreciated**

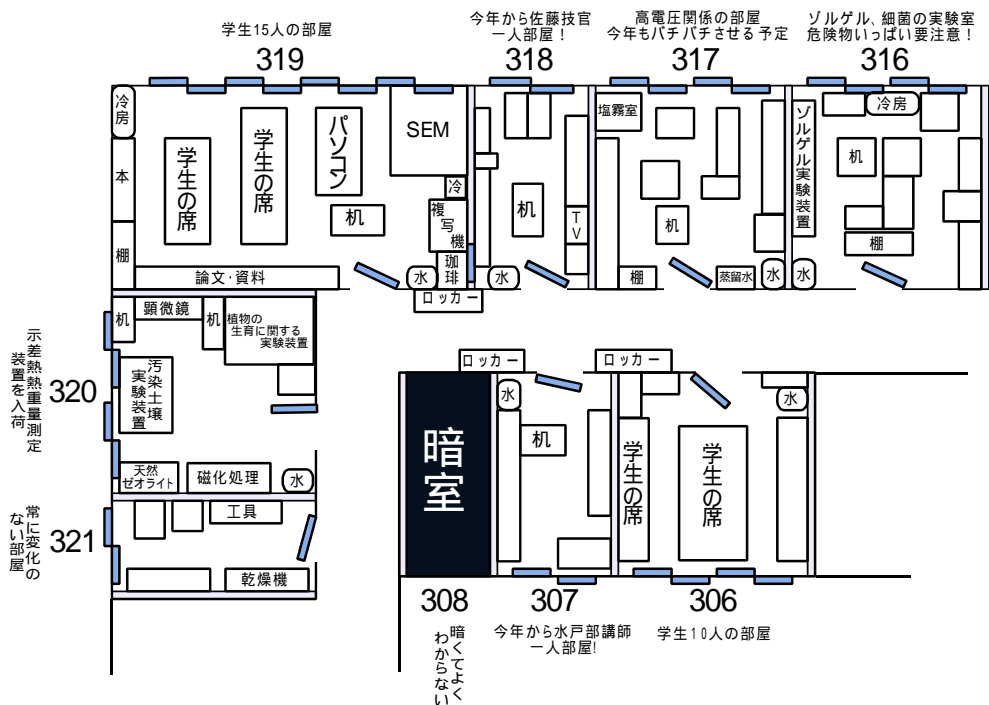
was that, professor Yoshimura and all other members in our lab gave me their warmly hands at this very trying moment. In spite of his busy routine, professor Yoshimura showered a lot of considerable cares on me in my studying and living here. In addition, although I could not speak Japanese language and yet could not communicate well in English, all members in Yoshimura Lab showed considerable understanding and helped me a lot in the lab. It was just because of the existence of all these friendly faces that I could get a strong self-trust and so that get over all difficulties in past several months.

Akita is a small city in Japan yet it is as beautiful as other cities in the country. Especially, I like the kind and friendly people I always meet here. In the next four years, I will do my best to study in Akita Univ. Except for the technological research, I am also planning to learn a lot about this country and her people, her customs, etc. I am now looking actively forward to bringing a well-realized dream from this pretty and serene city to Beijing four years later.

\*\*\*\*\*

## 最近の研究室の状況

今年は、水戸部講師と佐藤技官が一人部屋となり、それに伴う移動がありました。また、320号室に新しい装置が加わり、これからの研究成果に期待出来そうです。研究室の配置は以下の通りです。



## 年間行事 (1999.8~2000.6)

8月 ノストラダムスの大予言も外れ一安心し、夏休みを満喫するも、4年生は中間発表の重圧と暑さのために寝苦しい夜が続く。

9月 大学院進学6人、進路未定3人と就職戦線が厳しいことを物語っています。

10月 大学祭にて行った研究紹介は、天候にも恵まれ客入りもますますで、特に重心動揺計に人気が集まった。

11月 秋田大学創立50周年記念式典が開かれる。

12月 ボーリング大会が開催される。惜しくも総合優勝3連覇を逃す。

中間発表を終え、心は正月気分。しかし、2000年問題に備えて、研究データのバックアップをとる人が続出。備え有れば憂いなし。

1月 ミレニアムの年を迎え、2000年問題も何事も無く、後は修論・卒論に集中するのみ。研究室の灯かりが消えぬ日々が続く。

2月 今年度から研究論文提出が修論・卒論発表会後に変更されたので、発表を終えほっとする間も無く、論文作成に追われる。1人の大学院進学が決まる。

3月 修了式・卒業式が行われ、同じ研究室でがんばってきた仲間が巣立ちしていった。失敗を恐れず何事にも“挑戦”して行って下さい。各分野での御活躍を期待しています。また、余峰さんが客員研究員として来日。

吉村先生が工学資源学部長を任期満了。

4月 配属された15人の4年生の内、11人が秋田県出身である。再び研究室が賑やかになりました。

5月 大学院生内で季節はずれの風邪が流行するが、4年生に影響なし。就職戦線異常なし。

6月 本格的に就職活動が始まる。昨年より就職状況は明るい兆しを見せているようで、少しずつ内定が決まり始める。

## 学生代表挨拶

学生代表 毛利 大輔

研究室の諸先輩方、関係者の皆さん、21世紀最後の夏を如何お過ごしでしょうか。ミレニアムブームもY2K問題も過ぎていき、昨年までと大きく変わらない夏を過ごされていますか？それとも、大きな変化がありましたか？今年は牛乳等の食品に関する問題が多発していますが、お体は大丈夫でしょうか？さて、本研究室の新聞「挑戦」もついに第10号を迎えました。1桁から2桁になり、いっそう歴史の重みを感じます。

このような記念すべき本年度の研究室のメンバーは、博士課程1名、大学院2年1名、大学院1年7名、4年生15名に、今年ご結婚なされた研究員の熊谷さんと今年中国から来られた研究員の余峰さんの計26名です。余さんは初め日本語がほとんど話せなかったのですが、日々上達している様子をみるにつれ、我々学生も日々努力しなければと思う毎日です。

昨年度までの研究室との大きな変化の一つに、吉村先生が学部長をご勇退されたため研究室に姿を現される回数が各段に増えたことが挙げられます。昨年度までは、吉村先生のお姿を拝見するのがとても大変でしたので、夢のような状況です。吉村先生と話をする機会も増え、身も心も引き締まる毎日です。今年は研究室の大きな移動はなかったのですが、ゼミ室の愛称で親しまれた307号室が水戸部先生のお部屋になりました。より良い環境になられた水戸部先生の今後のご活躍が期待されます。また、学生の就職状況の話をしますと、昨年よりは良くなっているようですが大学院生は就職難でした。今年は現在のところ3名が大学院に進学予定です。

最後に、今年度は大学院2年生が1人で、先生方ならびに7人の大学院1年生に助けられてばかりです。あまり頼りにならない学生代表ですが、残りの日々研究室のお役に立てるよう努力していきたいと思えます。先生ならびに先輩方には、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

## 編集後記

夏本番を迎え、皆様いかがお過ごしでしょうか。夏バテにならないように気をつけて下さい。

“挑戦”第10号はいかがだったでしょうか？昨年から今年にかけて、先輩方の結婚というおめでたい出来事がたくさんあり、2ページに渡る記事になりました。

最近の研究室の状況の明細及び、“挑戦”第10号の創刊記念の特集を組めなかったのが心残りですが、それは来年の編集委員長（私ではないことを願う）に期待したいと思います。

また、快く寄稿を引き受けて下さいました吉村先生、鈴木先生、記事のチェックして頂いた水戸部先生また各編集委員の皆様のご協力のおかげであると感謝しております。

最後になりましたが、研究室新聞“挑戦”へのご意見、ご感想を心よりお待ちしております。連絡先は、下記のとおりです。 (M1 猪俣)

〒010-8502

秋田県秋田市手形学園町1-1

秋田大学工学資源学部電気電子工学科  
電気エネルギー工学講座 吉村研究室  
水戸部 一孝

E-mail kazu@kc6.ee.akita-u.ac.jp

### 吉村研新聞委員会

顧問 水戸部 一孝

編集委員長 猪俣 仁吉 (M1)

副編集委員長 齋藤 和久 (M1)

カビール ムハムドゥル (M1)

編集委員 工藤 光好 (E4)

菅原 誠 (E4)

照内 怜 (E4)

博山 幸輝 (E4)

ホームページが新しくなりました。

HP <http://kc6.ee.akita-u.ac.jp/>

現住所に変更がありましたら、顧問まで御一報下さい。